

# 蒼生

## 7 2020年 月号

広報誌「蒼生」バックナンバーはホームページ <http://kusumoto.or.jp/> に掲載されております  
冊子をご希望の場合、職員にお声がけいただければ過去の広報誌を差し上げる事もできます

### 私の音楽遍歴

名誉院長 飯島崇史



我が荆妻の友人にプロの音楽家（アルト歌手）がいる。今回も準主役として出演するので、応援をかねて広島アステールプラザに赴いた。能舞台で上演されるオペラ「松風」

原作：観阿弥、改作：世阿弥、作曲：細川俊夫、台本：ハンナ・デュブケンを観るために。ヨーロッパの劇場から制作依頼を受けて作曲家細川氏が現代音楽として作曲。平安時代、須磨に流罪となった公家の在原行平は二人の姉妹「松風」と「村雨」に親しくなるがその後許されて、二人には何も告げずに都へ帰ってしまう。姉妹は思いを断ち切れず、その後時代を経ても亡霊となって行平に見立てた浜辺の松に寄り添うという物語でドイツ語上演、日本語字幕というものの。クラシック音楽は好きなのだが、実のところ現代音楽

はどうも苦手で、前作「班女」三島由紀夫原作や「リ

アの物語」など能とオペラのコラボレーションはヨーロッパで絶賛を浴びたといわれても、正直それ程とも思えなかった。しかし今回はちがう。オーケストラによる演奏もオペラ歌手の音量のいずれも迫力漲り、久しぶりに胸の奥底に共鳴するものを感じた。満員の観客からの鳴り止まぬ拍手もそれを裏付けている。このように書くときも音楽通らしく聞こえるが、いつからこんなに音楽好きになったのだろうか。少なくとも親族を含め私の周囲にはクラシック音楽にかかわりのある者は誰一人思い浮かばないのだが。

5分間ほどではあるが、いつもLPレコードをかけて聞かせてくれたのである。もう50年以上も前のことながら、不思議と曲目も覚えている。プロコフィエフ「ピーターと狼」。サンサーンス「動物の謝肉祭」。ムソルグスキー「禿山の一夜」。デュカス「魔法使いの弟子」。チャイコフスキー「くるみ割り人形」など子供が興味を持ちそうなものばかり。その後NHKラジオで音楽を聞くようになり、高校生のとき市民会館で初めてオーケストラの生演奏を聴いた。ドボルザークの「チェロ協奏曲」N響の演奏で、堤剛のチェロに胸が震えた記憶がある。そうだ、生演奏と言えば小学校6年の時、同級生の女生徒二人が将来ピアノで東京芸大を目指すため東京に転校することが決まり、全校生徒を講堂に集めてお別れ演奏会が開かれた。演奏曲目のうち一つは忘れもしない、リス

トの「ラ・カンパネッラ（鐘）」であった。初めて聴いた曲だったが、これが小学生の演奏かと舌を巻いた。毎月レッスンを受けるため学校を休んで高松から東京に通っていたことをそのとき初めて知った。まだ新幹線のない時代、飛行機で通ったそうさ。その後のうわさは聞いていない。レコードにまつわるエピソードをいくつか紹介しよう。高校生の時東ドイツのドレスデンの高校生と文通をしていたが、彼から「西側のラジオ放送を聞いてビートルズを知った。非常に興味を持ったが東ドイツでは手に入らないのでレコードを送ってくれないか」とのこと。ビートルズの曲はよく知らないがレコード店で聞いて「イエローサブマリン」を送ったところ、シヨスタコービッチの交響曲5番「革命」指

揮キリル・コンドラシンが送られてきた。当時あまりよく知らなかったが、東側の世界では誇るべき曲であったようだ。ショスタコービッチは有名な作曲家であったが、あるときソ連の機関紙「プラウダ」から西欧寄りの作風と批判され、仕事が途絶えて困窮していた。そこで国家思想に沿った勇壮な交響曲第5番を作曲。これが大好評を博し、一気に失地回復を成し遂げたのであった。

さてこの頃購入したレコードのうち、特に気に入っていたのは、フランスの若手ピアニスト、フィリップ・アントルモンによるグリーグの「ピアノ協奏曲」である。第一楽章後半の躍動感あふれるカデンツァ（技巧を披露する装飾的即興的パート）が素晴らしい。ノルウェーのフィヨルドに陽が射す風景を思わせる。一流の演奏家なら表現の仕方は、大差ないと思っていたがそうではなかった。レコードからCDに主流が移ったとき、リ

ヒテルなどピアノの大家と称されていた演奏家の作品を購入してみたが、曲想がどうも違う。あきらめきれずようやくアントルモンのCDを探し当てたが、その時すでに新進気鋭の若者ではなく、ピアノ界の重鎮となっていた。そのため重厚ではあるがはちきれような華やかさはもはや見られなかった。どちらがよいとは言えないが、私にとって最初に聴いたものが全てであり、動物の赤ちゃんが生まれて初めて目にしたものを母親と思い込むのに似ているようだ（刷り込み…ローレンツ「ソロモン指輪」より）。

もうひとつ印象深いのは、結婚の祝いに第一外科の指導医曾我部先生からいただいたもの。なんとスピヤトスラフ・リヒテルによるバツハの「平均律クラヴィーア曲集全曲」全5枚組みであった。初心者が手にすることはまずないような貴重な宝物である。酒も

新型コロナウイルスは日本経済に大きな爪痕を残しました。今回はこの現状に鑑みて、借金の法的整理についてのお話です。

債務整理の手続としては「任意整理」「民事再生（個人再生）」「破産」の三つがあります。

「任意整理」は債権者と交渉して原則5年以内での弁済計画を新たに立て直す手続。「民事再生」は裁判所に弁済計画案を提出して会社や持ち家を処分せず手元に残したまま借金の額を5分の1に圧縮して原則3年間で弁済する手続。「破産」は裁判所に申立を行ってプラスの資産もマイナスの借金も全てリセットすることを目指す手続。適性をざっくりと述べると「弁済期間を延ばせば完済できそうなら『任意整理』、「安定した収入があつて会社を潰

～プロムナード～  
刑事の時効について  
士道法律事務所 弁護士 飯島 充士

したくない、持ち家を手放したくないなら『民事再生』、「借金を返す目処が立たないなら『破産』」といったところになります。

債務整理を検討する人がよく心配するのが「破産の事実が周囲に知られるのでは」「自分の仕事や子どもの将来に影響が出るのでは」ということ。

しかしこれらは無用の心配です。民事再生・破産の手続を取ると官報に掲載されますが、官報をわざわざチェックするような暇人はそういません。任意整理なら官報に載ることはありません。

情報を共有して防衛策を取るのには当然のことです。再び借金で失敗することの回避にも繋がるわけですからおとなしく受け入れましょう。

どの債務整理手続も「債務者を立ち直らせてもう一度社会経済の輪に加わるチャンスを与えること」を目標としています。「怖い」「恥ずかしい」「迷惑をかけたくない」と二の足を踏む人もいますが、時間が経つほどに状況は悪化するだけですし、先延ばしにする方が債権者に迷惑をかけることになります。

「借金は所詮お金の問題でしかない」ということを忘れないでください。借金を苦に自らの命を絶つ理由などどこにも存在しません。借金は容易に解決できる問題なので、自分の中で勝手に悩みを大きくせず早めに弁護士に相談してください。

タバコもやらずオーデイオの組み立てが趣味といわれるだけあって、常人では思いつかないような発想ではないか。荊妻はともかく、少なくとも私の心には深く刻まれたことは間違いない。偉そうにいろいろ述べてきたが、音楽の醍醐味はコンサートなどで直に演奏を肌で感じるところにあるのではないかと信じている。残念ながら楽器の演奏能力を持たない私が、唯ひとつ言えることは、年末の広島交響楽団とともにベートーベンの交響曲第9番「合唱」公演に合唱団員の一人として荊妻とともに7年間参加したことはおおきな財産であった。詳しくは当院広報誌「蒼生」20号2006年1月の記事をご参照いただきたい。

さて一流の演奏家による演奏は感動とともに学ぶことも多かった。若い頃チャイコフスキー・コンクール、パガニーニ・コンクール、ロンティボー・コンクールで入賞した日本を代表するヴァイオリニスト久保陽子さんの演奏でバッハの無伴奏ヴァイオリンソナタを聴いた。すでに70歳を越えていたが、東日本大震災の復興を願って神社仏閣の本堂で計70回のミニライブをおこなったもので、年を感じさせない演奏に感激した。演奏後のトークで「高齢になると指が硬くなって音域がカバーできなくなるため、毎日2〜6時間、指のストレッチが必要ですよ」とさりげなく話しておられたのが印象的であった。また貴重な体験として、岡山の知人のお嬢さんがパリでピアニストをしており、ロシア人のヴァイオリニストと結婚して時々帰国する際、その演奏を間近で見ることができた。ヴァレーム・チジク氏。パガニーニ国際コンクール3位など各種コンクールで入賞し、現在パリ市立音楽院で教鞭をとっている。もちろん当院でも病棟でまた職員慰労のためのコンサートを開いても

らい国際レベルの演奏を披露してもらったのは言うまでもない。その彼の一言。「ロシア国籍のときは国からストラディバリウスを貸与してもらっていたが、フランス国籍になったら自分で楽器を購入しなければならぬ。ストラディバリウスに匹敵する音質のものを2本使っているが、家が2軒建つぐらい費用が掛かる。最近日本の若い女性奏者で稚拙な技術なのに名器を持ってTVに出ているのを見ると腹立たしくなる」。身の丈に応じた楽器を、と言っているのであるが、それにしても高価である。古今のヴァイオリン二大銘器、ストラディバリウスとグアルネリ・デル・ジェスがその代表で、どちらも1700年

はじめ頃イタリア、クレモナの工房で作成されたものだが、最高一丁23億円のものもあり、「楽器の個性に演奏者が従うという趣」とも言われている。ストラディバリウスを愛奏して一世を風靡したのはナタン・ミルシテイン、アルテュール・グルミオー、ダヴィッド・オイストラフ、イツァーク・パールマンが有名で気品と明るさを特徴としている。対する鬼才グアルネリ・デル・ジェスは伝説の巨匠パガニーニがこの楽器を愛用して名声を高めた。パガニーニは「カノン砲」と名付けられた強大な迫力と音量を持つグアルネリ・デル・ジェスで様々な表現力を引き出し、ヨーロッパ音楽界を征服したとされている。その他愛用した名ヴァイオリニストはヤッシャ・ハイフェッツ、アイザック・スターン、レオニード・コーガンがいる。ものの本にはこう書いてあるが、実際には二つの銘器の聴き比べはまず不可能と思っていたところ、三原の音楽ホール「ポポロ」で聞き比べ音楽会が催された。二人の奏者（グアルネリ・デル・ジェス愛用者堀米ゆず子、もう一人はストラディバリウス・サン・ロレンツォを弾く古澤巖）にそれぞれバッハの無伴奏ヴァイオ

リン・ソナタとパルティータを演奏してもらおうというもの。確かにこのような企画ならわかりやすい。三原の「ポポロ」は企画力が優れているとの評判である。対して福山のリーデン・ローズはホールは中四国一とすばらしいのに、クラシック音楽の客の入りが少ないのが欠点。広島、倉敷は満席に近いのに。先般もバロック音楽の泰斗と皆が認める「イ・ムジチ合奏団」を呼んだとき、やはり客席はまばらで、舞台上に登場したとき第2ヴァイオリン奏者は一瞬顔をしかめた。それでも気を取り直して素晴らしいアンサンブルを聴かせてくれたので終演後、立ち上がって大きな拍手を送った。「ブラヴォー」と大きな声を発することはできなかったが。すると顔をしかめたヴァイオリニストも笑顔を見せた。ふと後ろを振り返ると、なんと少ないながらその日の観客全員がスタンディングオベーションをしてい

るではないか。皆同じ気持ちであつたのだろう。それに応える形でその後アンコール演奏が続き、延々6曲にも及んだ。その日の観客はみな満ち足りた表情でホールを後にしたのは言うまでもない。

クラシック音楽に関する思い出話を思いつくまま綴つてみた。しかしまだまだ言い足りない。例えばニューイヤークンサートでおなじみのウイーンフィルの本拠地楽友会館「黄金の間」、アムステルダム・コンセルトヘボールの雰囲気、鬼才ゲルギエフの主催するサンクトペテルブルグ、マリンスキー劇場の「白夜音楽祭」、小澤征爾率いる松本市のサイトウキネンオーケストラの様子。さらに昨年ローマ法王フランシスコの広島訪問が実現したが、準備調整の為2017年3月、ローマ法王序列三位のフランチェスコ・モンテリーズイ枢機卿がロッシーニ歌劇場管弦楽団とバチカン・レクイエム合唱団を引

き連れて、東日本大震災復興支援チャリティコンサートとして広島上野学園ホールでモーツァルトの「レクイエム」全曲の厳かな演奏を聴かせてくれたことなど、伝えたいことは山ほどあるがまた別の機会に譲るとしよう。そして興味のない方への助言として、時間と余裕があれば

絵画と同じで、本物に触れるのが望ましいと申し上げておきたい。さらにクラシック音楽に関するガイドとしてはNHKのEテレ「らららクラシック」をぜひお勧めする。最後になったが、私がクラシック音楽に興味を持つきっかけを作ってくださった中学の松崎先生には改めて感謝申し上げますとともに、多くの子供たちがこのような先生と巡りあうことを期待して擲筆する。

《ミニ知識》行平鍋：厚手の陶製の鍋で在原行平が須磨で海女に塩を焼かせた器にちなんで名づけられた。アルミニウムや銅の打ち出し鍋で木製の柄の付いた片手鍋もいう。

Vol.5

認知症について

看護師 森田

よいと考える人も少なくありません。

「明日は先生の診察に行くから入る」なんてこともありま

「お風呂に入りたがりません、ショートステイの間に1回でもいいので入れてください」という相談はよくあります。1日の疲れと汗を洗い流すと気持ちいいのに、なぜ入るのを嫌がるのでしょうか。

体調が悪いことがうまく伝えられないということもあります。病院に入院している人は何らかの体調不良があるわけ、昔は「風邪をひいたら風呂に入るな」という考えで生きてきた人は病気の時には入りたがりません。入浴をする最大の目的は清潔を保つことだと思いますが、体を拭くだけでもある程度の清潔は保

「明日は先生の診察に行くから入る」なんてこともありま

す。

なんでお風呂に入りたくな

いのか、言ってくれば分かるのに認知症の人は言いたくても言えません。

認知症の中期になると、どのような順序で入浴するのかわからなくなり、見通しが立たず入れなくなります。裸で見られたくないという場合もあると思います。入る習慣がないというのもよくあることで、若い人は「お風呂は毎日入るもの」という認識の人が

1回でも無理やりお風呂に入れたら、ずっと嫌がります。入浴後に「気持ちよかったです」といったとしても次も嫌がります。嫌な記憶は残りやすいからです。

「明日は先生の診察に行くから入る」なんてこともありま

す。

なんでお風呂に入りたくな

いのか、言ってくれば分かるのに認知症の人は言いたくても言えません。

多し、1日に2回入る人もいます。昔はお風呂に毎日入る習慣がなかったし、髪の毛は週に1回洗えば

戦前や戦後では、井戸水が主流で入浴設備も整っていませんでした。入浴は必要最低限の営みだったと思われま

「明日は先生の診察に行くから入る」なんてこともありま

す。

なんでお風呂に入りたくな

いのか、言ってくれば分かるのに認知症の人は言いたくても言えません。